

## 会 議 記 録

高松市附属機関等の設置、運営等に関する要綱第7条第4項の規定により、次のとおり会議記録を公表します。

会議名	令和元年度第1回高松市子ども・子育て支援会議
開催日時	令和元年8月9日(金) 14時30分～16時30分
開催場所	高松市防災合同庁舎3階301会議室
議 題	(1) 「高松市子ども・子育て支援推進計画」の推進状況調査結果について (2) 第2期高松市子ども・子育て支援推進計画(仮称)について
公開の区分	<input checked="" type="checkbox"/> 公開 <input type="checkbox"/> 一部公開 <input type="checkbox"/> 非公開
上記理由	—
出席委員	加野会長、山下副会長、天野委員、池畑委員、鬼松委員、金倉委員、橘川委員、合田委員、鈴木(佳)委員、鈴木(慈)委員、中橋委員、西岡委員、野崎委員、三木委員、山田委員 計15人
傍聴者	8人 (定員 10人)
担当課及び連絡先	子育て支援課子育て企画係 839-2354

### 審議経過及び審議結果

会議を開会し、次の議題について協議し、下記の結果となった。

- (1) 「高松市子ども・子育て支援推進計画」の推進状況調査結果について  
「高松市子ども・子育て支援推進計画」の推進状況調査結果について、事務局から説明し、委員から次のとおり意見があった。

(委員)

昨年、高松市において、出生率が1割程度減少したという深刻な事実がある。資料を見ると、3号認定の0歳児の待機児童が非常に多くなっているが、その待機児童数をゼロにすることが、親子にとって本当の幸せなのだろうかと常に考えている。事情により、女性が働くことを選択しなければいけない家庭もあると思うが、1歳程度までは子どもを家庭で育てたいと思う母も多い。待機児童数の内容をよく精査し、この待機児童が解消されたことによって、親子が救われ幸せになれるのか、それとも1歳半までは家庭で子どもを育てられるように、企業の協力のもと育児休業を充実させることが望まれているのか、実際のニーズや家庭の事情、女性のキャリア等を複合的に考えながら、対処をお願いしたい。

(事務局)

子どもが小さいうちの、母親とのかかわり方については、毎回の課題である。国の基準に沿い待機児童がゼロになるように努力をしているが、保育所に預けたい方は預けられ、1歳から1歳半までの時間を親子で過ごされたい方は育児休業を取得できるよう、国に向けて、今後要望する機会があればそのようにしたい。

(委員)

出生率の減少についての対策は、何かあるのかを伺いたい。他市町村では出生率が若干増加したとの報告がある。高松市として少子化対策はどのように考えているのか。

## 審議経過及び審議結果

(事務局)

香川県が結婚支援を実施しており、マッチング事業やイベントの開催を行っている。昨年度、香川県で実施したイベント等は18回であった。高松市としては、香川県が実施している事業の協力団体として、本市の職員に向けて香川県からの情報を周知しているところである。更に、高松市が運営しているたかまつホッとLINEを使用し、市民に広く香川県のイベント等の実施状況等をお知らせしており、結婚支援という形で少子化対策に努めている。

(会長)

委員からの意見にあったように、子どもの出生率が減少したにも関わらず、0歳児保育の量の供給が絶対的に不足しているのはなぜか、推理していかなければいけないと思う。保護者が就労を選択するか、子どもと過ごすことを選択するか、物理的に働かざるを得ない方もいる中で、様々な考え方や状況がある。大事なものは、働きたいと望んだときに、働ける状況ではない場合は是正しなければならない。行政にとっても、非常に重要視すべき問題だと思う。

(委員)

幼児教育・保育無償化が始まるが、それによって、施設に預け働きに出る方は増えると思われる。そうなる待機児童も増えていくと考えられるが、今後、市の対応はどのようなものになるのか。また、保育施設が増えるのはいいが、そこで働く方々が足りなくなり、保育の質が確保されなくなるのではないかという問題も出てくる。

もう一点、貧困について、現在非常に大きな問題になっている中で、経済的な理由で子どもを産むのをためらう人もいる。問題を解消することは難しいとは思いますが、どのように考えているのか伺いたい。

(事務局)

実際に、無償化が開始されると、保育の需要は増えるのではないかと、新聞報道等で懸念されている。高松市としては、これまで計画に基づき、認定こども園への移行や保育所の創設等により、今年度当初までに、0～2歳児の待機児童を中心とし、810人程度の受け皿の整備を行ったところである。現在、第2期子ども・子育て支援推進計画の骨子について、計画の策定にあたり、ニーズ調査の結果の取りまとめを行っている。その結果や、先ほど意見に出た出生数の減少についても再度調査し、推移等を踏まえて量の見込み等を推計し、保育の受け皿が不足することが見込まれる場合は、新たな保育施設の整備等を検討していく必要がある。施設の数が増えるにつれ、保育の質がどうなるのかとご意見をいただいているが、それについても年に一回の監査を行い、基準をしっかりと満たしているかどうかを含めて、確認していく。

子どもの貧困対策については、平成30年3月に、委員の皆様からご意見をいただき、高松市貧困対策推進計画を策定したところである。貧困家庭においては、教育の問題や経済的な問題などが、様々に生じている。それに応じて事業を策定しているが、まずは、それらの事業を確実に実施していくことが重要だと考えている。また、新規事業としては、こども食堂等への支援を始めた。高松市内では15か所のこども食堂が運営されており、こども食堂自体が貧困対策であるが、子どもの居場所づくりという目的も持っている。貧困家庭の方がその中で情報収集を行い、支援に繋げていけるようにすることから、こども食堂に対して助成を行っている。10年程度で全校区にまで広げていくことを目標に施策を広げており、貧困家庭の情報収集にも時間をかけて取り組みたい。

(委員)

国の方向性に従い、女性の就業率を80%にまで向上するような施策を、本当に行うのか。現状でも400人余りの待機児童が出ているのに、そうすると更に待機児童が増え、保育士不足に陥るのは明らかではないか。保育士養成校を出しても、全員が保育士にならない現状があり、この計画には無理があるのではないか

## 審議経過及び審議結果

と思う。どういった方法で保育士確保をするのか、待機児童を解消するのかを伺いたい。また、育児休業による手当の支給が1年間あっても、1年経過後に保育所へ入所できないリスクや、ならし保育もあり、1年未満で仕事復帰するケースも多い。これらが0歳児の待機児童が増える原因になっている。例えば、手当支給期間の延長を国に要望したり、市独自の対策を検討するなどしていただければ、0歳児の待機児童解消に繋がるのではないかと。0歳児保育については、保育士を相当数確保しなければならないのに、不足しているため定員を下げなければならず、待機になってしまう現状を理解していただきたい。

(会長)

次の議題である「第2期高松市子ども・子育て支援推進計画（仮称）について」の中で解消できる部分もあるのではないかと。議題2に移り、ただいまの意見について引き続き議論したい。

### (2) 第2期高松市子ども・子育て支援推進計画（仮称）について

第2期高松市子ども・子育て支援推進計画（仮称）について、事務局から説明し、委員から次のとおり意見があった。

(委員)

骨子案について、第2期計画のコンテンツは良い整備ができていのではないかと。しかし、具体的な内容はこの先であり、次回からの議論が非常に重要となる。特に、今回のニーズ調査を踏まえた上で、次の計画策定を行わなければいけない。例えば育児休業を見ても、母親の取得率は少し上がっているものの、父親の取得率は依然として大きな変化は見られないことから、明らかに強化をしないとけないと思う。一部ではあるが、ニーズ調査により、進展があまり見られない事業についても分かった。ただ、この5年間で事業の進展は見られなくとも、環境は大きく変化している。次の計画を策定する中で、特に意識していただきたいのは、「貧困」「ひとり親」「虐待」の3点である。発生してから注目されがちだが、予防するにはどういった施策が必要かを、特に考えていただきたい。事前に意見として、幼稚園や保育園でどのような地域子育てをしているか把握しているか、と提出したが、この意見の趣旨は、必要な人に必要な情報が届いているか、ということである。虐待の予防は、子育て家庭を孤立させないことにあり、また、情報交換ができることも重要である。地域子育て支援拠点で実施していることが、孤独に陥った親へ届かないのでは意味がない。検索等により伝わるように、工夫や配慮が必要だと思う。どのような予防策ができるのか、高松市らしさを考慮しつつ、取り組んでいただきたい。

次に、待機児童にばかり注目されがちであるが、一時預かりや、ファミリー・サポート・センターも非常に大事な事業である。子育て中にある、主に母親が、養育しづらい子どもに対し疲弊してしまい、少しの間子どもと離れた場合の利用が増えてきている。このことから、ファミリー・サポート・センターで子どもを預かる側の人材にも、非常にスキルが求められる。その中で、保育無償化にファミリー・サポート・センターや一時預かりも関係してくるので、更に需要が増えるとなると、受け皿となる方々の負担が増えてしまう。そのことについてのフォローをどのように行うかも、是非盛り込んでいただきたい。シニアの方の活躍や、ネットワークについても、前回よりも更に考慮して欲しい。子どもの支援となると、どうしても乳幼児に重点を置きがちになるが、18歳までの子どもについて、ひきこもり等についても大きな課題となっているので、十分な整備を行っていただきたい。

最後に、この5年間で、進んでいる事業もあれば、無くなったものもある。なかなか現場の声が伝わりづらいこともあるが、廃止事業になったものの代わりに

## 審議経過及び審議結果

なる事業はなかったのだろうか。既存のものがなくなるのであれば、それらに代わるものについて、手厚くサポートをしてほしい。民間や地域の団体にしても、手が足りない状況でなんとか活動しているので、その部分をスーパーバイズする専門家を配置したり、育成していただければと思う。

(委員)

児童虐待については、県と市が役割分担しながら連携を強化し、速やかに対応・支援できる体制を整えるとの旨が記載されており、非常に心強く感じている。また日々の業務においても、高松市こども女性相談課をはじめとして、保育や生活保護の部門等、市との役割分担をしながら共に進めていけていると思う。これまでの児童虐待事件から、原則、警察官を配置するようしたり、弁護士を配置したりと、介入の機能を強化している。危機的な状況に陥る前に子どもの安全を確保するために、一時保護の件数が今年度は非常に増えていて、定員を超える場合は児童養護施設や乳児院、里親に預かっていただくなど、日々苦慮しながら対策を行っている。具体的な話になるが、子ども・子育て短期支援事業を貧困に絡めるのか、虐待要項に絡めるのかをしっかりと考えていただき、県と市が取り組んでいけるようにできればと思う。保護者が急な病気に罹ったとき、養護の意味で一時保護をしたり、母親の出産時に預け先がないために一時保護したりと、これまではそういった場合でも利用できていたが、虐待件数が多くなるにつれて、そのようなケースが拾えなくなっている。様々なケースでショートステイを利用できるように支援を手厚くしていただき、虐待予防にも繋げていただければと思う。

(委員)

ニーズ調査は貴重な資料だと思う。中学生向けのアンケートの、自由回答の中に「学校に行けない子が通える学校や、通信制の学校をつくって欲しい」との意見があった。学校に通えない子どもたちの問題については、精神的なものもあり、とても重要だと思っている。今後、中学校もしくは高校に行けない子どもが通えるような施設を、是非創設していただきたい。

また、骨子案の6頁にあるニーズ調査結果②によれば、平成26年度の調査時と比較して、幼稚園の利用希望が減っている現状がうかがえる。現在の幼稚園に対しての施策はどのようになっているのかを伺いたい。

木太地区では、ネットワーク会議が盛んに行われている。ニーズ調査にもあるが、ネットワーク会議が開かれていることを知らないという回答が見られたので、幅広く市民へ周知していただきたい。

最後に、母親のフルタイムでの就労が増加しているが、計画にもある「家庭教育学級支援」は、ほぼ平日に行われているのが現状である。従ってこの事業は、今の時代には合っていないのではないかと思う。国が進めているので、この事業を廃止するのは難しいだろうが、事業内容の見直しを行っていただきたい。

(委員)

「子どもの医療費等に対する支援の充実」は非常にありがたい。日々子育てをする中で、具体的な要望としては、毎年インフルエンザの予防接種代金は厳しい出費となる。予防接種代金を補助していただける施策があれば助かるという意見は、母親同士の会話でも多く聞かれる。事前の意見として、日本脳炎の予防接種費用についても質問させていただいたが、「接種が足りていない児童に対し、そのすべてを補助することは、現在のところ考えていない」との回答だった。国によって接種が控えられていた時期もあり、各家庭でも接種についてどうすべきか混乱しているうちに、自身の子どもが対象年齢を超えてしまい、自己負担せざるを得なくなったケースもある。また、インフルエンザの予防接種についても同様であるが、病院によってその費用にかなりの差が生じる。医療についての詳しい事情は分かりかねるが、なぜ同じワクチンなのに違いがあるのだろうと疑問に思う。予防接種はすべての子どもに共通して必要なものだと思うので、是非検討

## 審議経過及び審議結果

していただきたい。

(委員)

第2期に計画を移行するに伴い、市が行っている様々な施策を踏襲するのは非常に重要である。保育士や、学校現場の教職員の働き方改革についても以前意見を述べたが、法律は変わっていないとしても、働き方や子育ての環境等を変えていかなければならない。質の高い教育・保育サービスについては、企業に対してもそういった教育を行うべきだと思う。それが、第2期計画の一つのテーマになるのではないだろうか。次回の議論の中で、それらを踏まえての意見交換ができればと思う。

(会長)

第1期の計画が策定されてから、4年と数か月が経過した。データを見てみると、評価をかなりされており、高松市では子育て関連施策が充実している等の意見がある。この傾向を、第2期にも繋げて行って欲しいと思う。また、こども女性相談センターや、男女共同参画センターなど、市と同じ趣旨のもと運営している機関もあるので、更なる連携が非常に重要になると思う。これから骨子を作るにあたり、様々な苦勞があると思うが、次回を楽しみにしている。

その他、委員から特に意見はなく、以上をもって、本日の会議を終了することとした。

以上